

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成20年4月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2871101388		
法人名	医療法人 尚和会		
事業所名	グループホーム ケアホーム宝塚		
所在地	(〒665-0047) 兵庫県宝塚市亀井町10-51		
	電話	0797-71-2828	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年4月23日

【情報提供票より】 [平成20年2月15日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計9人)		
職員数	9人	(常勤8人) (非常勤1人)	/ 常勤換算8.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	地上5階建て建物の 1階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	86,500円	その他の経費(月額)	27,300円	
敷金の有・無	有り (350,000円) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り () ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日あたり		1,500円	

(4) 利用者の概要 (平成20年2月15日 現在)

利用者人数	計9名 … (男性3名) (女性6名)		
要介護1	2名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均85歳 … (最低77歳) (最高96歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人尚和会 宝塚第一病院
---------	----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

宝塚第一病院を系列に、敷地内には、介護老人保健施設、通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所が併設され、医療・介護両面で、家族の安心感は大きい。併設施設内のリハビリフロアー・機械浴・トロン温泉・リハビリ庭園の利用や、クラブ活動への参加は、複合施設の利点である。家族を交えた関係作りも大切に、利用者家族の演奏(ヴァイオリン、ピアノ)によるコンサートも催され、「家族の心が奏でる音色」は、皆を優しく温かにつつんでくれる。外出支援についても、日常の散歩のほか、シャトルバスもドライブや買物などに広く活用されている。運営面でも、記録書類の記入方法も工夫され、職員への教育研修の機会も多く、今回の訪問調査においても、ホーム全体に「学び」と「向上」の姿勢が強く感じられた。◎添付の資料写真も参照

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回の外部評価においても、改善を要する事柄は特には無かったが、外部評価の内容を踏まえ、ホーム自ら、さらなる課題の発見と目標設定に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価は、職員全員で取り組み、これを一過性・形式的なものに終わらせず、課題の発見とケアサービスの質の向上に役立っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 会議は2ヵ月ごとに開催。自治会長・市役所職員・市立病院看護副部長・利用者・利用者家族が参加している。今後、民生委員の参加も予定されており、地域連携の強化が期待できる。会議では、ホームの現状・行事予定動・研修実績等が報告され、討議の内容をケアサービスに活かしている。地域の方にも協力いただき、「認知症理解」のための地域研修(認知症サポーター養成研修)実施も、現在検討中。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ホーム玄関に意見箱を設置している。ケアホーム通信、電話、ファクスを利用して、入居者の様子や健康状態などを定期的及び随時に報告している。家族会や家族の来所時に希望や意見、苦情などを聴取し、職員会議や随時のカンファレンスにおいて検討し、全職員が情報を共有したうえで、ホーム運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域の自治会の会員となり、地域活動に積極的に参加し、研修やボランティアも数多く受け入れている。買い物・散歩によく出掛け、地域の行事(夏祭り・文化祭・運動会など)にも積極的に参加している。健康講座や「町の保健室」を開設し、地域の方への知識還元にも努めている。

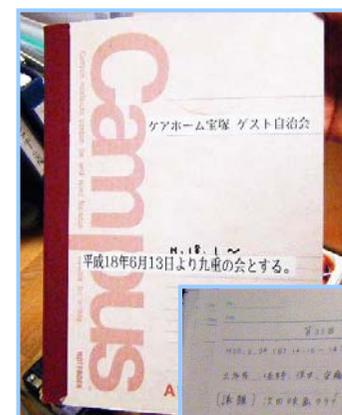
◎居心地よく過ごせる居室の配慮
入居者の馴染みの物を部屋に持ち込み…



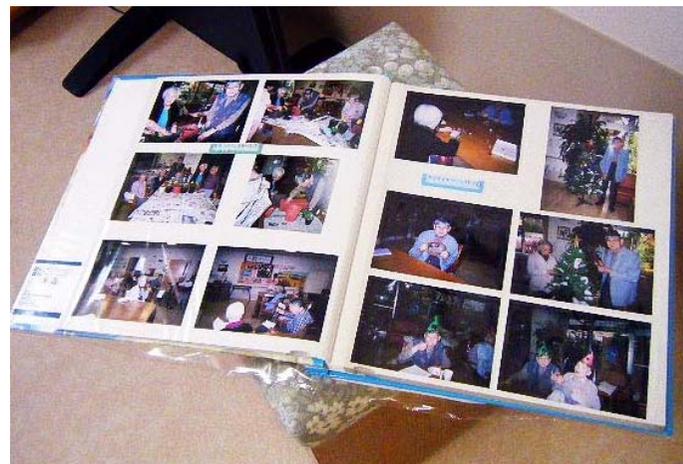
◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援
入居者家族による、心温まる演奏会



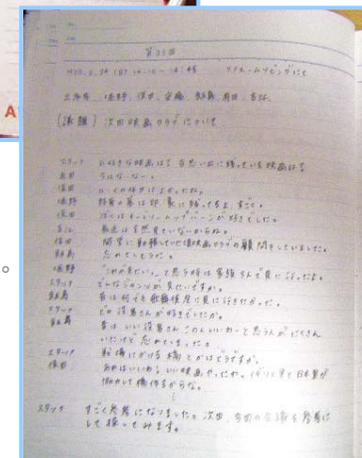
◎食事を楽しむ支援 ◎社会的生活の支援



◎家族等への報告
入居者の部屋に1冊ずつアルバムを用意し、
家族の訪問時には一緒に見てもらっている…



“入居者の自治会”
「九重の会」のノートに
行事の立案などの
意見をまとめてゆく。



◎楽しみごとの支援 ◎生活環境づくり
入居者の作品を飾り、共用スペースの雰囲気作りを…



施設内のコンクールで“金賞”



皆でランチパーティーの準備を…



ホームベーカリーで
手作りパンも…



▲併設のトロン温泉



▲作品（施設の作品展で「金賞」）



▲皆でおやつ(この日は「たこ焼き」)を作って楽しむ＝協働



▲リハビリ庭園

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「であい ふれあい えがおの輪」を理念とし、「一人ひとりの生き方、その人らしさを尊重し、地域住民とともにパートナーとして支援すること」を基本方針としている。一人ひとりの個性を尊重しながら、地域の方々とも積極的な交流を図り、えがおの輪を広く地域に広げていけるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念・基本方針に基づいた年間目標を策定し、ステーション内に掲示し周知を図っている。各職員は年度初めにその達成に向けた個人目標を設定し実践に取り組んでいる。年に2度、その達成度の評価をし、実践状況の把握を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の会員となり、地域活動に積極的に参加し、小学校・幼稚園の入学式、卒業式にも参加している。老人クラブ等からの依頼で、地域の健康講座の講師や、小学校の「初任者研修」、中学生の「トライやるウィーク」などを受け入れ、知識を地域に還元することにも努めている。事業所に近隣の小学生が遊びにきたり、地域住民が立ち寄り日常的に交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価制度の必要性や意義については説明の機会を作っている。職員へはケアホーム会議、家族へは家族会において、説明し理解を得ている。評価結果は、職員、家族、運営推進会議メンバー等に配布し、ホームページで公開をしている。評価内容は関係者と共有しサービス向上に役立てている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月ごとに開催し、広く意見を求め、サービス向上に活かしている。委員は、自治会長・市役所職員・市立病院看護副部長・利用者・利用者家族等で構成され、民生委員の参加も検討している。行政・地域との連携を強化し、様々な視点からの意見をサービス向上につなぐ意欲が感じられる。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宝塚介護支援相談員が毎月1回来所し、施設の活動状況や行事などを視察している。相談員と意見交換を行いサービスの質改善を図っている。職員の一人が介護認定審査会の委員として審査会に参加している。市主催の研修・行事には積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ケアホーム通信」を毎月発行し、定期的に現状の報告をしている。利用者の部屋には1冊ずつ専用アルバムが用意されており、家族が同席できなかった行事の様子や、日常生活での様子が保存されており、家族の訪問時に見てもらっている。他に家族会での報告、また、緊急時等を含めての連絡や相談は随時行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置しているほか、家族会や家族の訪問機会を利用して、希望や意見や苦情等がないかを問いかけている。出された意見、要望はミーティング等で話し合い、運営に反映させる仕組みを構築されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限にとどめ、利用者との馴染みの関係が構築できるよう受け持ち制を採っている。異動等がやむを得ない場合も、その人選(認知症ケアに適した職員)・引継ぎ面(重複勤務体制)等を考慮し、利用者への馴染みの関係を断ち切らないように最善の努力をしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の入職時研修をはじめ、現場においては個別対応を基本としたOJTを実施している。新任・現任職員全ての職員は個別目標を設定し、内部研修の他、外部研修にも積極的に参加をさせ、資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職対象の研修会、介護支援専門員研修会・連絡会に参加し、介護保険施設協会の研修会、市社会福祉協議会主催の研修会等にも積極的に参加し、他との交流を図りながら質の向上に取り組んでいる。	○	市内同業者との連絡会発足に向けて、市町の協力のもと、実現に向けて尽力を願いたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の性格にも配慮し、家族の方にも参加してもらいながら、受け持ちスタッフとの交流を通じて、徐々に時間をかけ、馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「利用者は人生の大先輩であり、尊敬の念を持ち、常に学ぶ姿勢を持って対応する。」と心得て、ケアにあたっている。基本方針である「パートナーとして支援する」ことを基本に共に過ごし、支えあい、利用者一人ひとりの持てる力を発揮する場を設けている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ち担当者を決め、その利用者に継続的にすることで、利用者の思いや希望が表出しやすくなるよう努めている。利用者と共に考えながら目標立案し達成できるように支援をしている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、主治医、担当ケアスタッフ、看護師、ケアマネジャーなどが思いや意見を交換しながら、利用者が自分らしく暮らせるよう、様々な視点(身体的・精神的・社会的)から評価し、QOL向上のための介護計画の作成を工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネジャー、担当ケアスタッフ、管理者、看護師等から構成されるサービス担当者会議を3ヵ月毎に開催し、見直しを行っている。状態変化及び問題発生時には随時カンファレンスを開催し、本人の希望や家族の意向も含め計画の見直し、検討を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設を開放し、クラブ活動への参加や、リハビリフロア・機械浴・トロン温泉の利用、リハビリ庭園への散歩など複合施設の特徴を活用し、QOLの向上に努めている。訪問理美容も、利用者の楽しみである。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	介護老人保健施設が併設されており、施設内常駐の医師、看護師も含めかかりつけ医と情報交換している。緊急時には協力医療病院との受け入れ体制も整備されている。日々の記録の取り方に工夫があり、医師の診断時も利用者の現況把握がしやすい記され方になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向をふまえ、病状の進行状態を共有し、個別に対応している。施設としての方針も明確にマニュアル化し、職員間でも共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時のオリエンテーション、OJTを通して職員の意識向上を図ると共に、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。できるだけ具体的な対応の仕方について指導するよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、その方の気持ちや思いを尊重し、落ち着いて生活できるようにできるだけ個別性のある支援を行っている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「九重の会」(自治会)では、一人ひとりが意見を出し合い、行事計画の他、月に数回開催されるランチパーティーで何が食べたいか意見を出し合い決定している。買出し係、野菜を切る係、味付けをする係、後片付けをする係等役割分担を決め、全員が楽しく参加している。ホームベーカリーによる手作りパンも、楽しみの1つ。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合ではなく、本人の希望に合わせ、入浴時間帯や入浴回数を決めるよう配慮している。浴室使用中は「ただいま入浴中」の札を掲示し、プライバシーに配慮している。併設施設のトロン温泉の入浴や行事湯(菖蒲湯・ゆず湯など)を楽しむことができる。排泄で汚れてしまった時など、いつでも入浴できる(24時間給湯可能)。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、日常的な役割(係り)を持っていただき、日々の生活の中で輝けるよう支援している。クラブ活動も盛んであり、現在事業所内でブームとなっている百人一首では、歌を朗吟する「読吟者」と、取り札を取り合う「競技者」に分かれ、活気あるひと時を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って、近くへの散歩だけではなく、施設のシャトルバスを利用し、外食やドライブ、買い物なども楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	周囲に広がるリハビリ庭園への出入りも自由で、併設する通所リハビリテーション室へも自由に行き来ができる。身体拘束を広義に捉え(言語や行動制限含)、また、鍵のかけることの弊害も多方面に分析しながら支援している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防犯マニュアルを作成し、年2回利用者と共に消防訓練を実施している。地域住民を対象に研修会を開催し、理解を深めている。非常用食料も備蓄されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。個別の摂食状態や嚥下状態を把握し、食べやすい食事形態について管理栄養士と相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からはリハビリ庭園が見渡せ、自由に散策もできる。庭園には四季折々の花が咲き、一部は菜園として収穫を楽しみ、食事やおやつに活用している。リビングの壁面には協働作品、季節に応じてお雛様や五月人形なども飾られ、落ち着いた共用空間が創られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や、馴染みの調度品を持ち込み、思い出の写真や作品を飾り、落ち着いて過ごせるよう工夫している。生け花クラブの自己作品が各自の居室に飾られている。		

※  は、重点項目。